

2026年度 SYLLABUS 【博士後期課程】

授業科目名	経済データ解析特別研究		
担当教員名	河野 秀孝		
ディプロマ・ポリシー (DP) との関係			
	DP1	DP2	DP3
		○	
科目 の テ マ	<p>昨今のコンピュータの発展にともなって、数値計算による様々なデータ解析が行われている。そのためには、統計ソフトによる自動的な相関関係だけではなく、<u>データから目的に応じたそれなりの価値を見出すためには、何らかの論理的因果関係から構築された思考の枠組み (モデル) 通して、データを解析する必要がある。</u></p> <p>例えば、経済事象が対象となるのであれば、まず、経済の理論モデルを構築して、そのモデルから導き出される仮説を立てる。そして、その仮説を適切なデータと適切な分析手法 (統計処理、シミュレーション等) 用いて検証する。仮説が首尾よく検証に耐えることができたならば、先の理論モデルの枠組みに沿って統計的結果を筋道立てて解釈することができる。</p> <p>本講義では、主にデータ解析に必要な分析手法や数値計算に焦点を置くこととする。数値計算は、解析的に解くことが困難な問題を解く場合に用いられている。ここで注意すべきことは、数値計算は近似計算であり、反復計算などの計算過程において、必然的に誤差が大きくなるということである。したがって、数値計算には精度の保証が問題となってくる。</p> <p>以上のことが、本講義での主な履修すべきテーマとなる。</p>		
科目 内 容 ・ 方 法 等	<p>本講義では、様々な<u>経済問題の数量分析</u>で重要な点として、コンピュータでの数値計算の際、特に、有効桁数と計算上の誤差の存在を認識することによって、理論上の数学と有限の数値計算の間には違いが存在することを理解する必要がある。</p> <p>経済データ解析の演習として、<u>人工言語で実際にモデルを構築</u>し、基礎的な実証分析ができるようになる。また、ソフトウェアを使用する場合も、デフォルトのアルゴリズムに依存することなく、目的に応じた適切なアルゴリズムを選択し、ソフトウェアの適切な利用ができるようになる。</p>		
到達目標：			
<p>本講義の目標として、第一は、基本的な数値計算のアルゴリズムを様々な実証分析に応用できる技術を修得。第二には、基本的数値計算上の問題と、特に統計分析や一般均衡モデルの基本的アルゴリズムを理解し、人工言語 (例えば、C 言語) で実際にモデルを構築し、様々な統計的予測やシミュレーションを行うことが出来るようになることを目指す。</p>			

評価方法及び評価基準：

A 評価: 授業内容を応用できるのみならず、批判的にとらえることを含めて、当該理解をさらに発展させられること。

B 評価: 授業内容の理解に基づいて、より広いケースにその理解を応用できること。

C 評価: 授業内容について、概ね理解していること。

授業の方法：

経済データ解析・数量分析の理解度を深めるために、まず適切な分析枠組み（モデル）を構築し、人工言語で実際にモデルを起動させながら、必要な分析手法や数値計算に焦点を当てた演習形式で授業を進める。